



シリーズ! 活躍する2019年度日本ITU協会賞奨励賞受賞者 その9

むらかみ まさひで
村上 雅英

株式会社NTTドコモ R&Dイノベーション本部 ネットワーク開発部 IMSコア担当
masahide.murakami.gp@nttdocomo.com
<https://www.nttdocomo.co.jp>



GSMAにおいてVoLTEローミング方式に関わるドキュメント改版及びIP相互接続に関するドキュメント策定を主導。世界に先行して自社でVoLTEローミングを運用した際に発生した接続性の問題を積極的に提示しドキュメントの質の向上に貢献。今後移動通信技術の国際標準化活動への貢献が期待できる。

VoLTEローミング及びIMS相互接続の標準化

この度は日本ITU協会賞奨励賞をいただき感謝いたします。VoLTE (Voice over LTE) におけるローミング方式の標準化及び実現に向けてご協力いただいた皆様、IMS相互接続の接続先NW判定のドキュメント策定に向けてご尽力いただいた皆様に深く感謝いたします。

VoLTEは高品質・低遅延の音声サービスをLTE上で提供しております。海外旅行時など端末が他キャリアにローミングした際は、他キャリアNWと連動した接続処理が必要となってきます。2015年に私が検討に加わった頃、この接続方式としてS8 Home Routed(S8HR)方式とLocal Breakout (LBO) 方式が提案されており、それぞれの標準化が始まっておりました。既にサービスとして提供中だったLTEデータローミングのアーキテクチャ上で提供可能だったS8HR方式と、新規インタフェースを設けて滞在先IMSと契約元IMSを接続するLBO方式のうち、ドコモは効率的・安価で提供可能なS8HR方式を選びました。既存アーキテクチャを流用できるとはいえ、当時はS8HR方式に関する標準上の記載は少なく、必要品質を担保するための課題、改版個所の洗い出しを行いながら標準化に当たりました。結果として、世界初の双方向のVoLTEローミングサービスを提供

することができ、日本のプレゼンスを示すことができたのではないかと思います。

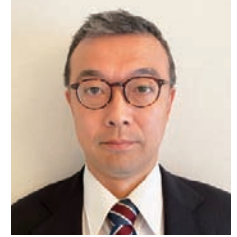
IMS相互接続は異なるIMS間で直接通信を行うための技術となります。GSMAの検討に加わった2015年当時、異なるNW間における音声通話は既存の共通線信号網を通じて行っており、VoLTE通話に見られる広帯域音声を利用することはできませんでした。これらを解決するために網間インタフェースをIP化し、IMSで利用するSIPやRTPを直接網間で送受することを目的として、GSMAにてナンバーポータビリティ等で電話番号が事業者間で移動した場合の課題抽出・解決案提案を行いました。接続に当たって必要な要求条件をNG.105にまとめ、ドキュメントのリリースを行うことができました。並行して開発も行っており、2018年10月より順次セルラ網間での相互接続も開始されております。

VoLTEローミングもIMS相互接続も世界的にみるとまだ拡大中のサービスとなります。世界中の事業者が容易にこれらのサービスに移行ができるよう、これからも標準化活動に積極的にに関わり、IMSのエキスパートとして市場を牽引していきたいと考えております。



よしだ なおと
吉田 直人

東日本電信電話株式会社 デジタル革新本部 国際室 担当課長
yoshida.naoto@east.ntt.co.jp
<https://www.ntt-east.co.jp/>



青年海外協力隊やJICAコンピュータ研修事業を通じて開発途上国のIT技術向上や人材育成に貢献。また、ベトナム郵電公社との共同事業のビジネスプランを作成し、事業実現の加速化に貢献。現在も自社の国際事業に従事しており、国際協力と開発途上国でのビジネスベースの事業推進での活躍を期待できる。

国際協力活動を通じた途上国のICT発展への貢献

この度は、日本ITU協会賞奨励賞を頂き、大変光栄に存じます。日本ITU協会並びに、ご指導・ご鞭撻いただきました関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。

初めての国際協力活動はJICA青年海外協力隊への参加でした。NTT東日本への入社2年目でしたが、自分の力で途上国の人たちに少しでも役に立ちたい、という思いで応募しました。ニカラグアのレオン市役所にシステムエンジニアとして派遣され、市役所ネットワーク構築等の技術指導・技術移転を行い、現地のIT技術向上と業務効率化に努めました。カウンターパートが仕事の主役であることを念頭に、技術移転の継続性と自助努力を促す活動、相手の視点に立った最適な解決策の検討、謙虚な姿勢、相手の強みと弱みを考えた業務分担といった意識をもって活動を行いました。2年間の活動を通じて、カウンターパートや同僚の協力の下、市役所ネットワーク構築やLAN技術の移転に成功しました。

現職復帰後、今度はJICA沖縄国際センターでのコンピュータコースの業務に携わる機会を得ました。開発途上国の電子政府推進に向けた人材育成を目的としたコースにおいて、コース設計、コースマネージメント、インストラクション、帰国研修員サポート等を実施しました。コース期間中は研修員との綿密なコミュニケーションやディスカッションにより研

修員との信頼関係を築くことで、数か月にわたる研修の実施効果を高めました。また、帰国後のアクションプランフォローアップでは、メールやテレビ会議を通じた遠隔支援をはじめ、対応が困難な研修員に対しては現地に赴いてアクションプランの遂行支援を行いました。開発途上国のIT人材育成に寄与できたと同時に、多様な国の研修員との数か月にわたる関わりの中で、研修員との強い絆を構築し、彼らからも多くのことを学ぶことができました。

これらの活動を通じて途上国のICT発展への貢献ができたことは、私にとってかけがえの経験となり、自信につながりました。また国際協力活動以外にも、当社のサービス開発部署や営業部署で業務を行い、新規ビジネスの企画開発や、SOHO市場向けの販売企画業務の経験を積みました。

このように国内外の様々な業務経験を経て、現在は再度NTT東日本の国際事業に携わっています。現在は国際協力事業にとどまらず、自社と途上国（ベトナム、インドネシア等）との共存共栄に向けたビジネス推進に従事しています。これまでの国際協力活動で学んだとおり、相手に真摯に向き合うことで信頼関係を構築し、自分や自社の強みを生かして相手にどのように貢献できるかをお互いに考えていくことの大切さを忘れずに、途上国のICT発展に寄与していきたいと考えています。